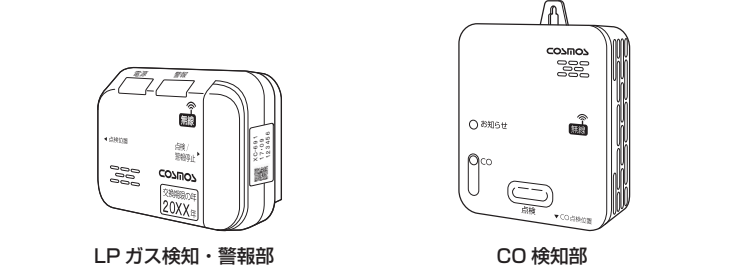


ガス・CO警報器 (LPガス用)

型式 XC-691

施工説明書 (施工される方へ)

お客さまにこの警報器を安全に正しくご使用いただくために、この施工説明書をよくお読みいただき、指定された取り付けを行ってください。



1 施工される方へのお願いとご注意

お願いとご注意

- 警報器の取り付けは、この施工説明書に従って指定された取り付けを行ってください。
- 取り付け終了後に、必ず動作確認を行ってください。
- 取り付け終了後に、P.15「7-1 警報器の説明」P.16「7-2 お客さまへの周知事項」について、必ずお客さまに説明してください。
- 取り付け前に必ずお読みいただき、お客さまや他の人々への危害や損害を未然に防止するために、必ずお守りください。注意事項は、誤った取り扱いによる危害や損害の程度を、下記の表示で区分しています。

⚠ 警告	作業を誤った場合に、取付作業者および使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠ 注意	作業を誤った場合に、取付作業者および使用者が傷害を負う場合または物的損害の発生が想定される内容を示しています。

1

3 取り付けかた

3-1 警報器を取り付ける前に

⚠ 注意

- 警報器の前に物を置いたり、取り付けたりしないでください。警報が遅れる原因になります。
- 取付位置の材質・強度を確認し、土壁や強度の弱い合板には取り付けないでください。
- ピンを指に刺さないように、取り扱いには十分注意してください。取付強度を保持するため、ピンは根元まで確実に打ち込んでください。万一、ピンがゆるんだ場合は、取付位置をずらしてピンを付け直してください。

3-2 警報器の取り付け

【3-2-1 LPガス検知・警報部】

⚠ 注意

- LPガス検知・警報部を取り付ける際には、電源プラグをコンセントから抜いて、作業を行ってください。感電・故障・誤動作の原因となります。
- 電気設備技術基準および内線規程により、電源コードはステップルや釘などで固定しないでください。
- 電源コードの上に重いものを置かないでください。
- 既存の金属製の取付板には取り付けないでください。無線通信に不具合が発生するおそれがあります。

5

⚠ 警告

- 分解や改造はしないでください。故障の原因となります。
- 警報器を落下させるなど、衝撃を与えないでください。故障の原因となります。
- CO検知部の取り付けは、安定した台に乗って作業を行ってください。転倒してけがをするおそれがあります。

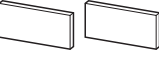
⚠ 注意

- LPガス検知・警報部に耳を近づけて、警報音を聞かないでください。聴力障害などの原因になります。
- 正しい取付位置に取り付けてください。取り付けがはけない場所に取り付けると、警報の遅れ、誤動作、故障の原因になります。

2 施工前の確認

2-1 梱包部品の確認

梱包部品の種類と個数を確認してください。

CO検知部付属品	LPガス検知・警報部付属品	その他
取付フック…1個 	取付板…1個 	石膏ボード ピン…4本  木ねじ (長さ10mm) …4本  取扱説明書 (保証書付) …1枚 
石膏ボードピン …3本 	取付ねじ(長さ16mm) …1本 	コード振れ止め …2個  両面テープ…2枚  施工説明書 (本書) …1枚 
点検ガス採取器…1個 	警告表示 「警報器が鳴ったら」 ステッカー…1枚 	

2

おねがい

- 取付位置は、P.3「2-4 取付位置の確認」の正しい取付位置を守った上で、電源コードの距離・取付板にLPガス検知・警報部を引っ掛けるための隙間などを確認して決定してください。
- 壁面または台所設備の端より、LPガス検知・警報部左端を1cm以上離して取り付けてください。警報の遅れの原因になります。

① 取付板を取り付ける。

〈木質壁・コンクリート壁の場合〉

取付板を付属の木ねじ(長さ10mm、2本)で壁面に固定する。
※ コンクリート壁の場合は、市販のカールプラグを打ち込んで木ねじを使用してください。

〈タイル壁など木ねじが使用できない壁の場合〉

- 1) 取付位置のゴミや水気、油気などをふき取る。
- 2) 両面テープの片面のはくり紙をはがして取付板の裏側に貼る。
- 3) 取付板に貼った両面テープの、もう片方のはくり紙をはがして壁面に貼る。

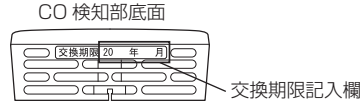
〈石膏ボード壁の場合〉

取付板を付属の固定ピン(左右4ヶ所)で壁面に打ち込んで、固定する。

6

2-2 交換期限の記入

お取り付け日から5年後の西暦年と同月を記入してください。



2-3 保証書・警告表示「警報器が鳴ったら」ステッカーへの記入

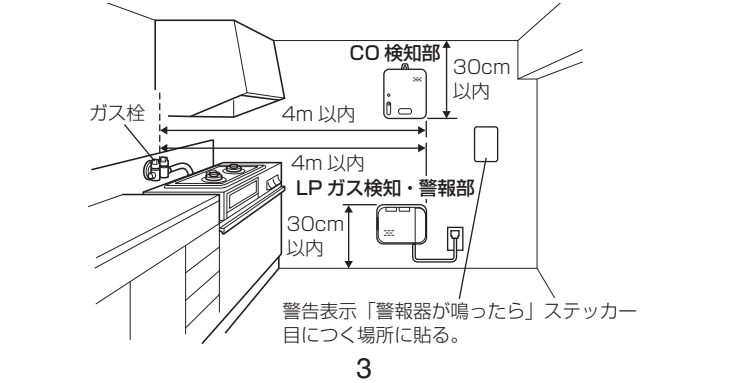
保証書の所定の欄に、販売店さまの名称・住所・連絡先を記入してください。警告表示「警報器が鳴ったら」ステッカーの所定の欄に、販売店さまの名称と連絡先を記入してください。警告表示「警報器が鳴ったら」ステッカーは、お客さまの目につく場所に貼ってください。

2-4 取付位置の確認

取付位置については、お客さまとよく相談して決めてください。

〈正しい取付位置について〉

- ガスもれ、不完全燃焼を検知しようとするガス機器を設置している場所と同一の室内に設置すること。
- ガスもれ、不完全燃焼ガスが滞留しやすい位置、ランプの確認しやすい位置、容易に点検できる場所へ取付けること。
- LPガス検知・警報部は床面から30cm以内の高さで、CO検知部は天井面から30cm以内でガス器具や元栓(ガス栓)の最も遠いところより水平距離で4m以内の場所へ取り付けてください。



3

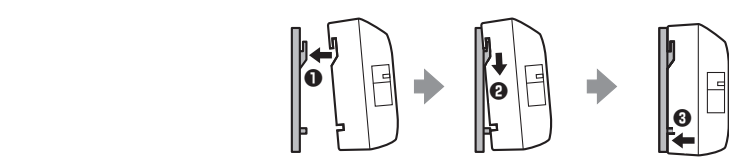
② コード振れ止めを壁面に固定する。



③ 電源コードをコード振れ止めにはめ込む。



④ LPガス検知・警報部を取付板に取り付ける。



おねがい

余った電源コードは、ガス検知の妨げにならないよう、LPガス検知・警報部のガス検知部から離して置いてください。

7

〈取り付けてはいけない場所について〉

以下の場所には、絶対に警報器を取り付けしないでください。

＜共通＞

- 振動、衝撃の激しいところ。誤作動や故障の原因になります。
- カーテンウォールなどで仕切られているところ。警報が遅れる原因になります。
- 給排気口、通路ドア付近などの風通しのよいところ、すきま風の入るところ。警報が遅れる原因になります。
- 台所設備などでさえぎられるところ。警報が遅れる原因になります。
- 浴室内、水のかかる場所、水滴がつく場所、結露する場所。感電や電氣的故障の原因になります。
- 屋外。屋内専用です。

＜LPガス検知・警報部＞

- LPガス検知・警報部に器物や煮こぼれ、水、油などが落ちるところ。誤作動や故障の原因になります。
- 使用時しか電源を入れないところ(ビルなどの湯沸室で夜間電源を切るところ)。警報器としての機能を果たしません。
- 温度が-10℃以下または40℃以上になるところ。誤作動は故障の原因になります。

＜CO検知部＞

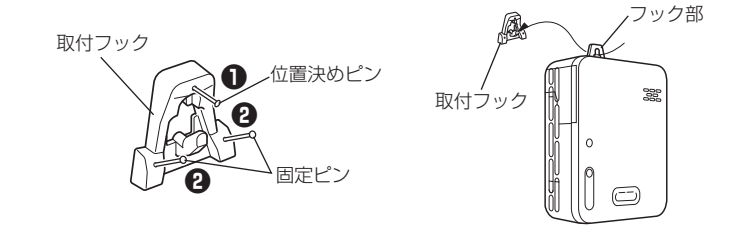
- 燃焼機器などの排気、湯気、油煙などが直接かかるところ。誤作動や故障の原因になります。
- 温度が0℃以下または50℃以上になるところ。誤作動は故障の原因になります。

4

【3-2-2 CO検知部】

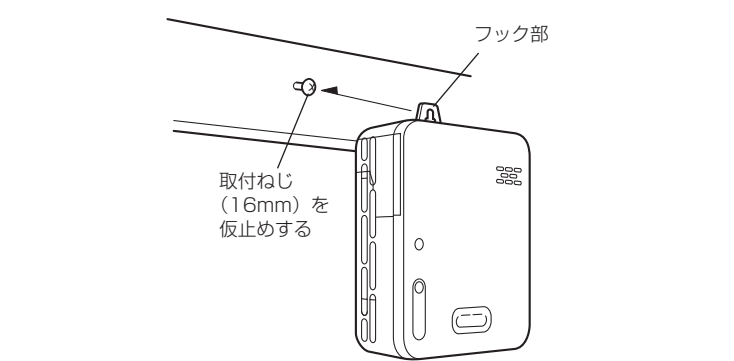
■取付フックで取り付ける場合(石膏ボード壁専用)

- ① 取付フックを壁面に押し当て、位置決めピンを垂直に打ち込む。
- ② 取付フックを垂直位置にした状態で、取付フックの固定ピン(左右2ヶ所)を斜めに打ち込んで固定する。
- ③ CO検知部のフック部を、取付フックに引っ掛ける。



■取付ねじで取り付ける場合

- ① 取付ねじ(16mm)を途中までねじ込み、仮止めする。
※ コンクリート壁の場合は、市販のカールプラグを打ち込んで木ねじを使用してください。
- ② 仮止めした取付ねじに、本体のフック部を引っ掛ける。
- ③ 取付ねじを締め付け、CO検知部を固定する。

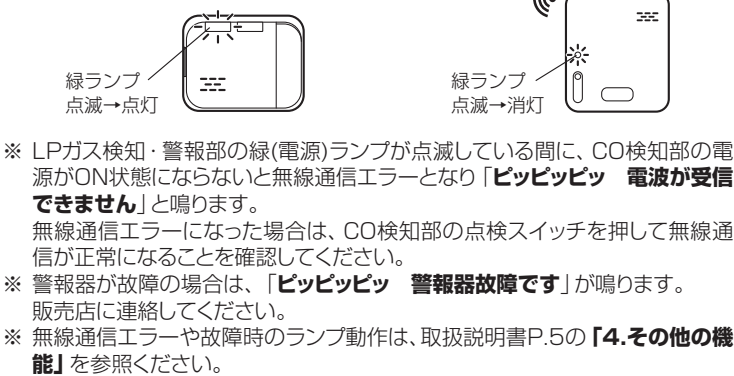


8

4 取り付け後の点検

4-1 初期動作の点検

- ① LPガス検知・警報部の電源プラグをコンセントに差し込む。
LPガス検知・警報部の緑（電源）ランプがCO検知部と無線通信確立まで最大2分間点滅します。
- ② LPガス検知・警報部の緑（電源）ランプが点滅している間に、CO検知部の起動プラグを押し込む。
CO検知部の緑（お知らせ）ランプが点滅を開始し、無線通信の確認を行います。
- ③ 約30秒後に「警報器正常です 電波が受信できています」と鳴り、LPガス検知・警報部の緑（電源）ランプが点灯し、警報器は監視状態に入ります。
CO検知部の緑（お知らせ）ランプは電源投入から約30秒後に消灯します。



9

<CO検知部の点検方法>

- ① 採取管の先端部分の温度が下がるまで（約30秒程度）待ってください。
- ② 採取管の先端部分をCO検知部底面のスリットから少し離して、容器を圧縮し、採取したガスをゆっくり（約3秒程度）注入してください。

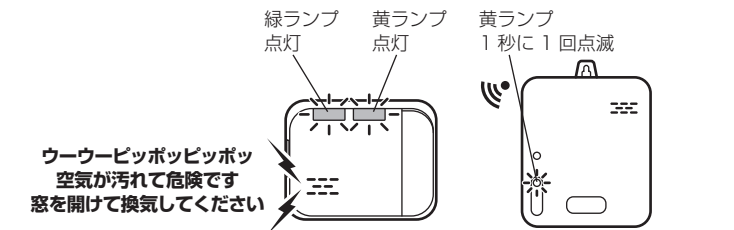
おねがい

緑（お知らせ）ランプが点滅している間（電源投入から約30秒）はガス掛け点検を行わないでください。この間、ガスを掛けてもセンサは反応せず、警報は発しません。

△ 注意

点検ガス採取器の先端をCO検知部の中に差し込まないでください。故障の原因となります。

- ③ LPガス検知・警報部の黄（CO警報）ランプが点灯し、CO検知部の黄（CO警報）ランプが点滅してLPガス検知・警報部側で警報音が鳴れば、正常です。



※ ガスを注入しても、警報を発しない場合は、もう一度同じ作業を行ってください。それでも警報を発しない場合は、警報器の故障が考えられますので、別の警報器とお取り替えください。

13

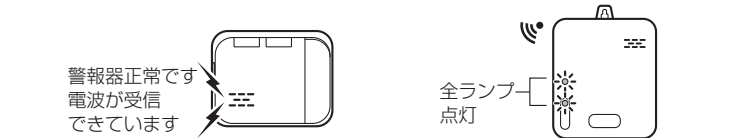
4-2 無線通信確認

下記の要領でLPガス検知・警報部とCO検知部間の通信状態を確認することができます。

- ① CO検知部の点検スイッチを押すと、ランプが約1秒間全点灯します。



- ② 通信状態が正常であれば、CO検知部のランプが約2秒間全点灯し、同時にLPガス検知・警報部側で「警報器正常です 電波が受信できています」が鳴ります。また、緑（電源）ランプと黄（CO警報）ランプが同時点灯します。



※ 通信エラーの場合は、①の動作後、②の動作はありません。その場合は、CO検知部の位置を移動させて、もう一度CO検知部の点検スイッチを押して、LPガス検知・警報部側が「警報器正常です 電波が受信できています」と鳴ることを確認してください。
※ LP検知・警報部のスイッチを押しても、無線通信確認をすることができます。その場合は、CO検知部のランプは点灯しません。

10

5 警報音声の確認

- ① 電源プラグをコンセントに差し込んだ後、LPガス検知・警報部の警報停止スイッチを押すと「ビッ」と鳴り、緑（電源）ランプが点滅を開始、そのまま3秒間押し続けてください。「ビッビッ」と開始音が鳴ります。
- ② 警報停止スイッチを離すと以下のように作動することを確認してください。

動作順	音声内容	ランプ		
		LP ガス検知・警報部		
		緑（電源）	赤（ガス）	黄（CO）
1	ウーウービッビッビッ 空気が汚れて危険です 窓を開けて換気してください	点滅	点灯	消灯
2	ウーウービッポッビッポッ 空気が汚れて危険です 窓を開けて換気してください	点滅	消灯	点灯

- ③ 監視状態（緑（電源）ランプが点灯）に戻ります。

<マイコンメータ遮断用無線装置(RM-691:別売品)と接続している場合>【マイコンメータとの連動確認の簡単点検機能】

LPガス検知・警報部の電源プラグをコンセントに差し込んでから約4分30秒間は、簡単点検機能が働いています。マイコンメータにしゃ断信号を即時で出力するため、連動確認が容易に行えます。
上記【5 警報音声の確認】①の操作を行った後、
④ 警報音が鳴りやんだ後、P.12【4-3 ガス警報機能の点検】の<LPガス検知・警報部の点検方法>を行ってください。
⑤ 警報音が鳴り、即時にマイコンメータにしゃ断信号を出力します。
⑥ 約10秒後に、マイコンメータがガスをしゃ断します。
※ CO警報の出力をケイホウ端子または外部端子に接続している場合は、ガス警報でマイコンメータのしゃ断を確認後、マイコンメータの復帰作業を行ってからLPガス検知・警報部の電源プラグをコンセントから抜きもう一度、同じ作業を繰り返してCO検知部のガス点検を行ってください。ただし、電源プラグをコンセントに再投入する際はCO検知部の点検スイッチを押してLPガス検知・警報部との無線連動確認を行ってください。
※ 接続されているマイコンメータが集中監視を行っている場合、集中監視元まで警報があがりますのでご注意ください。
※ 電源プラグをコンセントに差し込んで約4分30秒以降は、ガス警報が鳴ってから約25～35秒後に、警報器がしゃ断信号を出力します（通常動作）。

14

4-3 ガス警報機能の点検

【ガス採取方法】

準備いただくもの：点検ガス採取器（付属品）、ガスコンロまたはガスライター（市販品）

△ 注意

- 付属の点検ガス採取器以外は、絶対に使用しないでください。
- 採取したガスを体内に吸引しないようご注意ください。吸引しますと、中毒症状を起こす場合があります。
- 採取したガスは、ガス警報機能の点検以外には使用しないでください。
- ガスを採取した直後の採取管は、絶対に触らないでください。採取管を長時間加熱しないでください。やけどをしたり、ガス採取器が破損するおそれがあります。
- アルコールを主成分とした点検ガスおよびライター式の点検ガス（生ガス）は、使用しないでください。センサ異常またはセンサ故障の原因になります。

- ① ガスライター（市販品）またはガスコンロなどを点火し、炎の高さを約4cmに調節する。

おねがい

炎が小さいとガスが採取しにくくなります。

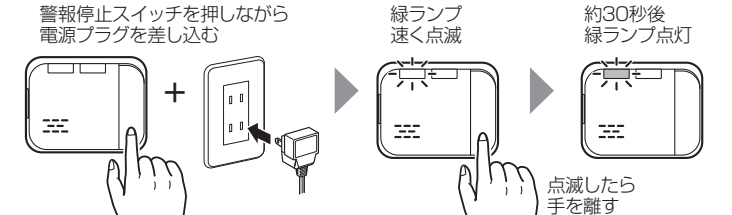
- ② 点検ガス採取器の容器部分を十分圧縮して、採取管の先端を炎の外炎部（橙色部分）に持っていく。

- ③ 容器の圧縮をゆっくり（約3秒程度）ゆるめ、炎の中からガス成分を吸引する。

11

6 交換期限お知らせ機能を解除する場合

出荷時、交換期限お知らせ機能が働いています（警報器の交換期限を過ぎたことをランプの緑色の点滅でお知らせする機能です）。機能を解除する場合は、LPガス検知・警報部の警報停止スイッチを押しながら電源プラグをコンセントに差し込んでください。ランプが緑色に速く点滅し、約30秒後に点灯に変わり、警報器は監視状態に入ります。
※ 機能有りに戻す場合は、同じ手順を繰り返してください。機能の変更（有り・無し）は何度でも可能です。警報停止スイッチを押しながら電源プラグを差し込む



7 お客さまへの説明について

お客さま立ち会いのもとでの点検が終わったら、必ずお客さまに以下の説明を行い、ご理解を得てください。

7-1 警報器の説明

- ① 警報動作および点検結果の説明。
- ② 取扱説明書を必ず読んでいただくことのお願い。
- ③ 取扱説明書、施工説明書の保管のお願い。
- ④ 取扱説明書に基づく主要な機能の説明と確認。
 1. ガス警報の内容（赤（ガス警報）ランプ点灯、警報音の確認）と、警報時にとるべき処置の説明。
 2. CO警報の内容（黄（CO警報）ランプ点滅または点灯、音声合成音の確認）と、警報時にとるべき処置の説明。
 3. ガス、CO警報の同時警報の内容（赤（ガス警報）ランプと黄（CO警報）ランプの交互点滅、音声合成音の確認）と、警報時にとるべき処置の説明。

15

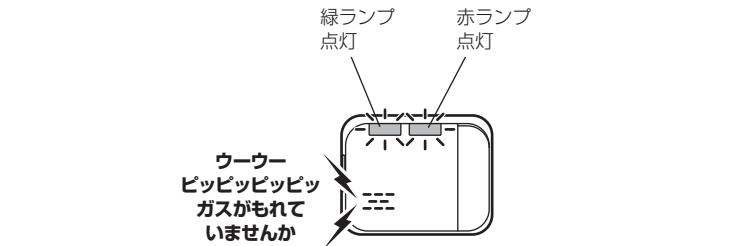
<LPガス検知・警報部の点検方法>

- ① 採取管の先端部分の温度が下がるまで（約30秒程度）待った後、点検口にゆっくり（約3秒程度）ガスを注入する。

△ 注意

点検ガス採取器の先端をLPガス検知・警報部の中に差し込まないでください。故障の原因となります。

- ② 赤（ガス警報）ランプが点灯して警報音が鳴れば、正常です。



※ ガスを注入しても、警報を発しない場合は、もう一度同じ作業を行ってください。それでも警報を発しない場合は、警報器の故障が考えられますので、別の警報器とお取り替えください。

12

4. 部屋の外にいて、警報に気づいたときにとるべき処置の説明。
5. 誤報が発生する原因と処置の説明。
6. 異常発生時（故障、電池切れ）の内容（緑（電源）ランプ点滅と音声合成音の確認）と処置の説明。
7. LPガス検知・警報部の警報停止スイッチの説明。
 - 機器故障音声機能
 - 電池切れ音声機能
 - 交換期限切れ音声機能
 - 通信エラー音声機能

7-2 お客さまへの周知事項

- ① 警報器の交換期限のお知らせ（本体に表示）。
- ② 保証書を必ず読んで内容を理解した上で取り扱うこと。
- ③ 警告表示「警報器が鳴ったら」ステッカーに記載の緊急連絡先のお知らせ。
- ④ 警報器の移設禁止（移設依頼時の連絡先）。
- ⑤ 警報器の分解禁止。
- ⑥ 引越し時の処置。
- ⑦ 故障・異常時の連絡先。

16